

◎本日のひとこと！

二宮尊徳翁の“自利8、他利2”の精神では、当時の課税から考えて利益10のうち7を納税し、残る3のうち8割を自らの利益とし、2割を他人の利益とした…自らの利益をわずか“2割4分でよし”とした！…脱帽です。

◎気になる記事をご紹介します！

月日・情報媒体	内容・概略	一筆啓上
4月30日 (29日) 日刊ゲンダイ	まともな経済力学の逆襲が始まった 浜矩子教授談 ・「悪い円安」という言葉では正確な現状認識が出来ない ・円高阻止を続けた結果 ・金利上げと財政再建に舵	断言が本質を言い当てる浜教授の指摘には納得です。 “政策の 無能を隠す したり顔”
4月30日 日本経済新聞	円安加速 政策にジレンマ ・緩和終生 利払い負担増 ・財政出動 政府歳出膨張 ・為替介入 米理解難しく ・輸入インフレ 海外発の物価上昇	日銀の取るべき道はどれでも厳しい状況です。優秀な人材も頭脳も活用しなければ宝の持ち腐れ。 “違えても 合っているふり 巧くなり”
5月1日 日本経済新聞	太陽光、火力の半値以下に ・日本の電気落札、燃料高背景 ・再生エネ普及しやすく 火力より安い落札が定着	自然頼りの再生エネの弱点克服は遠い道のりも光は見た？ “太陽に お願ひよねと 手を合わせ”
5月1日 朝日新聞	「仕事ない」ロシア去るIT人材 最大17万人 ・「若者にとって希望持てない国に」来日したロボット技術者 ・制裁が影響 報酬受け取れず	プーチンはウクライナ人と同時にロシア人の人生も奪ったようです。 “裏切りは 自らのこと やがて知る”
5月2日 日本経済新聞	東証再編 上場企業、数だけ多くても ・東証再編は骨抜き、成長なき「看板」に失望 ・東証プライムには玉石混淆の1800社超がひしめく	米ナスダックと比べて東証を指摘した堺屋太一の警鐘聞こえます。 “忘れたか 老いたる発展 途上国”

◎諸事推考！

◇5月2日 グランドジャンプ「猛き黄金の国 二宮金次郎」1787年～1856年

〔最終話 二宮尊徳 その知られざる偉業〕

- ・報徳記・富田高慶著「二宮尊徳先生は、終生人々に徳をもって徳に報いる道を教えた」
 - ・報徳記・富田高慶著「あらゆる行いもまた悉く（ことごとく） 徳に報いる事にあつた」
 - ・二宮先生語録・斎藤孝之著「富者は余財を推し譲って貧者に渡す 貧者は力を尽くしてその恩に報いる」
- ～ 1800年代の封建時代(江戸末期)に民主主義と成果主義を実践したのが二宮尊徳です。報徳仕法と呼ばれる農村復興政策を指導して数多くの再生を果たしました。尊徳は幾度もの困難な局面を乗り越え、名声は全国に及びました。真に偉大なる日本人の一人です。…”尊徳は 他利を重視の 理想持ち“…歩く尊徳の立像は歩きスマホを助長するのでしょうか？最近では座像になっています。…“尊徳も ながら禁止で 座り像”…

発行者：【中央総合事務所グループ】

株式会社中央経営コンサルタンツ&中央会・経営教育センター

文責：庄子 興

所在地：〒160-0022 東京都新宿区新宿六丁目 28 番 8 号 ラ・ベルティ新宿 9 階

☎：03-5155-2858 ファックス：03-3207-3655 HP：https://central-mc.jp